雑記

種田山頭火

青空文庫

私には私らしい、庵には庵らしいお正月が来た。明けましてまずはおめでとうございます、とおよろこびを申しあげる。門松や輪飾りはめんどうくさいから止めにして、裏山から歯朶を五六本折ってきて瓶に挿した。それだけで十分だった。

歯朶活けて五十二の春を迎へた

お屠蘇は緑平老から、数の子は元寛坊から、餅は樹明居から頂戴した。

元日、とうぜんとしていたら、鴉が来て啼いた。皮肉な年始客である。即吟一句を与えて追っ払った。

お正月のからすかあかあ

樹明君和して曰く、

かあかあからすがふたつ

このふたつがうれしい、二羽といわないところにかぎりないしたしみがある。さて、このふたつが啼いてどこまで飛んだやら！

今年の私は山村庵居のよろこびに添えて、二つの望みがある。

好きなものは、と訊かれたら、些の躊躇なしに、旅と酒と本、と私は答える。今年はその本

を読みたい。まず俳書大系を通読したいと思う。これが一つの望み、そしてその二つは、酒から茶へ転換することである。いいかえればアルコールを揚棄したい、飲まずにはいられない酒を、飲んでもよい酒としたいのです。前者は訳なく実現されましょうが、後者は自分ながらあぶない。そこでまあ出来るだけ割引して、せめて酒に茶をまぜたいと念じている（そんな無分別な考を起すなという悪友もある。じっさい、私にもそんな気がしないでもないのですが）。

本集を発送したら、久しぶりに行乞の旅に出かけるつもりです。時々行乞しないと米塩にも困りますが、それよりも人間が我儘になって困ります。どの方角へ向うかは、まだ私自身にもはっきりしていません。どこでもよいのですから、半月ばかり、そこらあたりをぶらついてきましょう。

畑作はなかなかおもしろい。ほとんど自給自足が出来る。

ほうれんそうはたくさん播いた割合にはよくないが、新菊はよかった。ちしゃはすばらしく葉をひろげて、たべてもたべてもたべきれない。大根は根よりも葉が出来て、これでは大根という代りに大葉とよびたいほどです。菜は間引いてからぐんぐん伸びた。それを洗って干して漬ける。ひとりしみじみ噛みしめていると、ついほろりとする。このほろりが解りますか。

たべきれないちしやの葉が雨をためてゐる

けさはけさのほうれんさうのおしたし

霜の大根ぬいてきてお汁ができた

こんな句がいくらでも出来ます。畑作よりも句作の方がまだ上手だという評判です。

会費について二三照会せられた方がありますから、ざっくばらんにここへ書き添えて置きます。あれはまず米一升というところで、二十五銭としましたが、それに拘泥するには及びません。それより多くても、また少くてもかまいません（タダでは困りますけれど）。私の生活は伸縮自在、化方に通じています。金があればあるように、なければないようにやってゆきます。

急にお寒くなりました。夜更けて物思いにふけっていると、裏の畑で狐が鳴きます。狐もさびしいのでしょう。

諸兄の平安を祈ります。（一、一六、夜）

（「三八九」第五集）

青空文庫情報

底本：「山頭火随筆集」講談社文芸文庫、講談社
2002（平成14）年7月10日第1刷発行
2007（平成19）年2月5日第9刷発行
初出：「「三八九」第五集」
1933（昭和8）年1月20日発行
入力：門田裕志
校正：仙酔ゑびす
2008年5月19日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

雑記

種田山頭火

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/